

修士論文(要旨)

2017年1月

2者間の感情表出とフロー体験の関連  
—生徒のフロー体験に焦点を当てて—

指導 松田 チャップマン 与理子 先生

心理学研究科  
健康心理学専攻  
215J4053  
飯嶋 みなみ

Master's Thesis (Abstract)  
January 2017

The Association between Emotional Expression and Flow Experiences between Two  
Parties: Focusing on Students' Flow Experiences

Minami Iijima

215J4053

Master's Program in Health Psychology

Graduate School of Psychology

J. F. Oberlin University

Thesis Supervisor: MATSUDA-CHAPMAN, Yoriko

## 目次

第1章 はじめに	1
1.1 ポジティブ心理学とフロー理論	1
1.2 フロー理論, フロー体験	1
1.3 従来のフロー研究	4
1.4 フロー理論の研究手法	5
1.5 近年のフロー研究 –感情表出に焦点を当てたフロー研究–	5
1.6 感情表出	7
1.7 問題と目的	9
1.8 本研究における意義	9
第2章 方法	10
2.1 対象	10
2.2 倫理的配慮	10
2.3 手続き	11
2.4 予備調査	12
2.5 質問紙構成	13
2.6 自然観察調査	13
2.7 観察調査における信頼性	14
第3章 結果	15
3.1 状態の分類	15
3.2 フロー状態と言語的・非言語的行動	18
3.3 フロー状態と気分の変化	25
第4章 考察	27
4.1 教師と生徒の状態の連動	27
4.2 レッスン中の教師と生徒の言語的・非言語的行動	29
4.3 各状態の特徴	29
4.4 レッスン前後の気分の変化	30
4.5 本研究の限界・将来展望	31

引用文献

添付資料

近年の心理学の領域では、人間のポジティブな資質や幸福を構築することに関して、新たな方向性が示され(Seligman & Csikszentmihalyi, 2000)、無気力や抑うつ等のネガティブな状態と正反対の状態像とされる幸せや生きがい等と密接に関わる心理現象として、フロー体験に高い関心が向けられている(Nakamura & Csikszentmihalyi, 2002)。Csikszentmihalyiによって提唱されたフロー理論とは、人間がフロー体験を通してより複雑な能力や技能を持った人間へと成長していく過程を理論化した発達モデルである(Csikszentmihalyi, 1975)。

従来のフロー研究は、フロー生起条件・フロー体験中の状態像・フロー体験を測定するための尺度開発など個人レベルでの研究がほとんどであった。その後、Walker(2010)の研究によって、集団レベルでもフローが生起することが明らかにされた。その集団フローにおいて注目されたことは、集団で協力し、相互作用・感情表出をすることでフロー体験が促進されるということであった。この感情表出や相互作用に焦点を当てたフロー研究も増加しつつあり、対象を教師と生徒という関係から検討している(Bakker, 2005; 木村, 2008;2011)。両者の研究結果により、教師がフロー体験をする授業では、生徒の積極的な授業参加や教師と生徒の頻繁な会話が重要な要因になっていることが明らかにされた。

感情表出とフロー体験に関連した先行研究では、教師と生徒の関係性から検討はしているものの、教師のフロー体験に焦点当てているため(Bakker, 2005; 木村, 2008;2010)、生徒のフロー体験に関しては検討されていない。そのため、本研究では対人フロー体験や感情表出の基礎研究として、2事例を縦断的に検討し、①対人場面における感情表出によって生徒側のフロー体験や気分・状態にどのような影響があるのか、②活動中の教師と生徒のフロー体験が実際に連動しているのかどうか、実際に連動しているならば、どのような行動や相互作用が特徴となるのかを明らかにすることを目的とする。

対象は、ピアノ教師1名(女性, 52歳)と、その教師の生徒2名(共に女子中学生, 14歳)であった。調査は予備調査を1人4回ずつ(各60分)と本調査を1人10回ずつ(各60分)、自然観察調査とレッスンの前後に質問紙調査を実施した。質問紙は、ESM(木村, 2011)を用いてフロー体験を測定した。予備調査は本調査での観察調査に用いる項目を選定するために実施した。

結果は、教師と生徒でフロー状態が連動していたのは、生徒1は全10回のレッスンのうち3回、生徒2は全10回のレッスンのうち3回であり、教師と生徒の状態はある程度連動していた。また、教師と生徒のフロー状態が連動していたレッスンでは、「生徒の笑顔」「教師からのアドバイス」「教師が生徒を褒める」「共調視線」「会話」「生徒からの質問」「反響姿勢」「生徒の相槌」が多く観察され、フロー状態の時の特徴として明らかになった。この特徴は生徒1と生徒2共に同様であった。また、生徒が不安状態であった時のレッスンでは特徴的な行動は見出されず、退屈状態やアパシー状態であった時のレッスンでは活動自体が少なかった。

本研究において、教師の影響で生徒がフロー状態になったのか、生徒の影響で教師がフロー状態になったのかという因果関係まで明らかにすることができなかった。また、特徴的な行動が増加してフローを促進したのか、フロー状態になったから特徴的な行動が増加したのかという関係についても明らかにすることができなかった。本研究の結果は、教師と生徒の関係だけでなく教える教わるという関係全てに応用していくことができるのではないだろうか。

## 引用文献(抜粋)

- Bakker, A.B. (2005) .Flow among music teachers and their students: The crossover of peak experiences. *Journal of Vocational Behavior*, **66**, 26-44.
- Bakker, A.B. (2008) . The work-related flow inventory: Construction and initial validation of the WOLF. *Journal of Vocational Behavior*, **72**, 400-414.
- Csikszentmihalyi, M. (1975). Beyond boredom and anxiety . San Francisco: Jossey-Bass.
- Csikszentmihalyi, M. (1990). Flow: The psychology of optimal experience. *New York: Harper and Row*, (チクセントミハイ, M. 今村浩明(訳) (1996). フロー体験 喜びの現象学 世界思想社).
- Csikszentmihalyi, M. (1997). Finding flow: The psychology of engagement with every day life . New York: Basic Books.
- Csikszentmihalyi, M., Rathunde, K., & Whalen, S. (1993). Talented teenagers: The roots of success and failure. New York: Cambridge University Press.
- 石村郁夫(2008). フロー体験の促進要因とその肯定的機能に関する心理学的研究. 筑波大学人間総合科学研究科 博士論文, 1-328.
- 石村郁夫・河合英紀・國枝和雄・山田敬嗣・小玉正博(2010). 課題の種類と文化的自己観がフロー体験に及ぼす影響.
- 石村郁夫・小玉正博(2010). フロー体験と活動後の評価との関係.
- 伊藤哲司(1991). ノンバーバル行動の基本的な表出次元の検討. 実験社会心理学研究, **31(1)**, 1-11.
- 木村優(2008). 授業に対する高校教師の感情的評価を規定する要因-フロー理論を手がかりに-. 教育心理学会, **50**,480.
- 木村優(2011). 教師が授業に没頭するための条件と方略~フロー理論に基づく高校教師の快感情経験の分析~. 教育心理学会, **68**,230-231.
- Nakamura, J. & Csikszentmihalyi, M. (2002). The concept of flow. In C. R. Snyder & S. J. Lopez (Eds.), *Handbook of positive psychology*. New York: Oxford University Press, pp89-105.
- 島井哲志 (2006) . ポジティブ心理学-21世紀の心理学の可能性-. ナカニシヤ出版.
- Walker, C.(2010). Experiencing flow : Is doing it together better than doing it alone ?. *Journal of Positive Psychology*, **5(1)**,3-11.